第９回宇宙民生利用部会　議事要旨

１．日時：平成２７年１０月１６日（金）　１０：００－１２：００

２．場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

３．出席者

（１）委員

中須賀部会長、白坂部会長代理、石田委員、岩井委員、後藤委員、柴崎委員、山川委員

（２）事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

４．議事要旨

（１）宇宙民生利用に関する工程表の改訂について

宇宙民生利用に関連する取組として、「科学技術イノベーション創造プログラム（SIP）」について、内閣府（科技・イノベーション担当）より、資料１に基づき説明を行った。その後、「宇宙民生利用に関連する工程表の改訂」に関して議論を行った。委員から以下のような意見等があった。（以下、〇意見等）

【科学技術イノベーション創造プログラム（SIP）関連】

〇防災分野に関しては、衛星で取得されたデータが防災科学研究所等に集積されているが、地方自治体が十分に活用できていない状況。例えば、取得されたデータをクラウドデータ化し、専門家が災害状況等を判断し、その結果を地方自治体等が使うというスキームが必要なのではないか。

〇SIP の取組を進める上で出てきた宇宙関連の課題について、例えば今後のリモートセンシング衛星のスペックに反映できるよう、宇宙分野の専門家にフィードバックしてもらうような機会があるとよいのではないか。

〇衛星測位信号は、ジャミングやスプーフィングが起こる可能性があることから、セキュリティについての検討もしっかり行うべきである。

〇SIP の事業年度が終了しても、各課題の取組が継続されるよう工夫して欲しい。

〇2020 年のオリンピック・パラリンピック成功の鍵となる、体の不自由な方にも優しい社会を作るという視点で事業を進めて欲しい。また、技術が使われる出口やユーザーサイドの視点を踏まえて事業を進めて欲しい。

【宇宙民生利用に関連する工程表関連】

〇リモートセンシング衛星の利用ニーズの把握は重要であり、そのニーズを衛星のスペックに反映するための評価・検証の仕組み作りに近々に取り組まなければならない。

〇リモートセンシング衛星のニーズを考えるには、既存のリモートセンシング衛星をど

う使うのか、10 年後の国内外の需要を見据えて将来の衛星開発をどう進めていくのかという長期的な二つの視点が必要である。

〇将来の宇宙開発は一国だけで進められないものも出てくる。どの国や企業と組んで開発を進めていくかという戦略を立てる必要がある。

〇個人サービス・観光分野への準天頂衛星の利用等は社会的な関心も高く、成功事例が出ると民間企業も動き始める分野であるため、スピード感をもって取り組んで欲しい。

〇地方自治体は宇宙インフラの大きなユーザーになり得るが、宇宙に対する知識がまだ十分ではないため、宇宙に関心を持ってもらうための売り込みが必要である。

〇宇宙インフラの魅力が伝わるような言葉をユーザーの視点から検討して欲しい。

〇改訂された工程表を見た人が、自分の持っている技術等で関わっていきたいと思った時に、どのようにアクセスすればよいかというガイダンスが必要である。

以　上